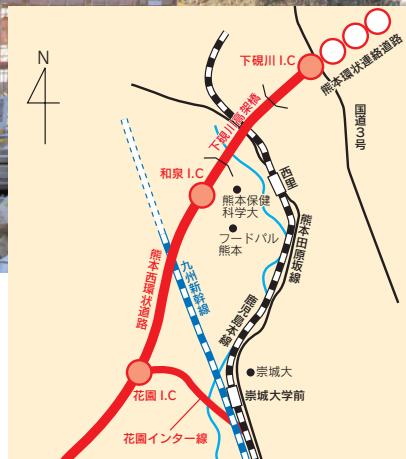


# 「花園インター」、下部工工事が本格化



▲延長1005mの下硯川高架橋。13年度内にも上部工事に着手する。現在は調整池の整備などが進んでいる

▶西区花園7丁目、柿原地区で下部工工事が進む花園インターチェンジ。インター線の橋脚工事が急ピッチで進む



## 「熊本西環状道路」



▲花園インター線は西区の池亀町と池田4丁目、花園7丁目を通る。写真は池亀町で進む盛土。後方に九州新幹線高架、崇城大学

熊本環状道路のおよそ「西半分」を担う「熊本西環状道路」。政令市移行に伴う権限委譲で熊本市が12年4月に県から事業を引き継いでいる。下硯川と砂原間の延長約12kmのうち、下硯川と池上間の約9kmが整備区間に指定。当初県では9km区間の供用開始を「平成20年代中ごろ」としていたが、当時の県財政や用地確保の遅れなどが理由で事実上困難に。当面、整備区間の半分にあたる下硯川と花園間4kmの15（平成27）年度先行供用に向け工事を急いでいる。

12年度に着工した「花園インター線」の工事は、13年度から花園インターチェンジ（I.C.）の下部工工事が本格化。現在、西区花園7丁目の現場ではI.C.の基礎工事が進むほか、本線につながるインター線の橋脚が姿を現し始めている。九州新幹線の西側、同区池亀町付近では同線の盛土工事が進行中だ。

このほか4km区間では、北区硯川町付近で進む延長1005mの「下硯川高架橋」が13年度内に上部工事に着手する予定で、14年度末にも橋げたが姿を現し始める見通しだ。9km区間の事業進捗率は、下硯川と花園間が約60%、花園と池上間は約30%（13年度末見込み）。

## 「飲食・食品」「建設業」からの農業参入が増加



八代市内にある株式会社モスファーム熊本のトマト農場。今後約5年で八代農場・山都農場合わせ3ha、売上高1億4千万円を目指す



▲八代市鏡町の㈱うえなかの選果場。増産に備えて同社など関連3社運営の㈱SORAは同町内に選果場を新築移転する。14年2月末の完成予定

農家の高齢化や耕作放棄地の解消が課題になっている農業。その中で企業の農業参入が増加している。熊本県によると、県内では2009年度から13年度上半期までに85件の参入があった。そのうち17件は県外から。飲食・食品関連業や建設業からの参入が最も多く、最近では福祉関係やNPOからの参入もあるという。

ハンバーガーチェーン店「モスバーガー」を全国展開する㈱モスフードサービス（東京都）は、商品に使用するトマトの安定供給に向け、農業生産法人の㈱うえなか（八代市鏡町、上中智晴社長）などと13年4月に農業法人㈱モスファーム熊本（同）を設立。八代市と山都町で農場を開設し年間通して生産している。年間の生産量は約150トンの見込み。両農場で計1haを作付けしているが、現在ハウスを新設しており生産拡大を図る。

納豆・豆腐など製造販売の㈱丸美屋（和水町、東健社長）は、自社で原料の大豆を調達しようと12年11月、㈱農匠なごみ（同、田中浩一社長）を設立した。総合建設業の坂田建設㈱（水俣市、坂田信介社長）は公共事業投資が抑制される中、農業との兼業で存続・成長を目指すべく08年に参入。食農事業部「もじよか堂」を立ちあげた。12年から同市内の自社農園で国産無農薬アボカドの栽培に挑戦している。



▲坂田建設㈱食農事業部「もじよか堂」のアボカド畑（水俣市）。写真は定植から2カ月後の13年7月頃



▲㈱丸美屋が設立した㈱農匠なごみの大豆畑（山鹿市）。写真は13年12月の収穫時